

# ならちゅうしん経営研究会 例会報告

## 第 379 回 研究会

日 時	令和 6 年 10 月 16 日(水) 午後 2 時 ~ 午後 4 時 40 分
場 所	名阪スポーツランド
内 容	1部 次世代自動車試乗体験 日産/アリア、日産/サクラ、本田/N-VANe、BYD/ドルフィン 2部 セミナー ・「なぜ次世代自動車は脱炭素につながるのか」 講師:奈良県脱炭素推進課 奈良県地球温暖化防止活動推進センター ・「社用車・公用車へのEV導入ノウハウ」 講師:住友三井オートサービス株式会社 株式会社Hakobune

今回の研究会は、名阪スポーツランドにおいて、次世代自動車試乗体験会に参加いたしました。

まず、会員の皆さまに次世代自動車の試乗を体験いただきました。日産/アリア、日産/サクラ、本田/N-VANe、BYD/ドルフィンの4車種を順番に試乗いただき、コース内を実際に走行いただきました。走行中、EV車の特徴や性能について説明をいただくことが出来ました。

その後、場所を変えてセミナーを受けました。

まず、奈良県脱炭素推進課と奈良県地球温暖化防止活動推進センターの方より「なぜ次世代自動車は脱炭素につながるのか」についてお話をいただきました。

カーボンニュートラルのための乗り物ということで、ガソリンや軽油の車は化石燃料なのでカーボンニュートラルにはならず、電気車はカーボンニュートラルを実現することが出来るということです。電力を再生可能エネルギーで賄うとCO2排出は大幅に削減可能になるとのことです。

現状、日本のEV車シェアは諸外国に比べ低く、このままでは競争に負け日本は取り残されていくのではとのことです。今後、サプライチェーンを通じてCO2排出量の削減が求められるケースが出てくるかもしれないので、まず業務用車両からEV車へ転換してみてもとのことでした。

次に、住友三井オートサービス株式会社と株式会社Hakobuneの方より「社用車・公用車へのEV導入ノウハウ」についてお話をいただきました。

2022年に世界で販売されたの自動車台数のうちEV車は10%を占めています。中国を見ると25%、日本は2%です。2026年以降、国内メーカーのEV車のラインナップが一気に拡大する見通しとのことです。また、充電インフラの普及も大幅に進んでいく見通しとなっています。

株式会社Hakobuneの方からは、企業の福利厚生の一貫として通勤用EV車導入を検討してはと提案をいただきました。企業と従業員でEVをシェアリングするというもので、従業員はコストの削減が期待でき、企業はCO2排出量の削減が可能となります。

次世代自動車は、会員の皆様にとっても大変関心が高く、今回の試乗はよい体験になったと思います。

以上



芳仲会長 ご挨拶



次世代自動車展示車



次世代自動車試乗体験



奈良県脱炭素推進課、奈良県地球温暖化防止活動推進センター



住友三井オートサービス株式会社、株式会社H a k o b u n e